

岐阜歌舞伎保存会（岐阜市）

延宝四年（六七六年）伊奈波社頭で官許を得て始まった「岐阜座」による歌舞伎や辻能は人形浄瑠璃の興行へ進展し、明治末年まで盛んに公演が行われました。嘉永年間（一八四八―五五年）には七世 市川團十郎が岐阜に滞在するなど、芝居町としての隆盛を極め、岐阜祭の子供歌舞伎では三世 中村仲蔵が指導にあたったと記録されています。さらに、若衆による「にわか芝居」が商家の座敷や山車の前など、岐阜の町のあちこちで盛んに演じられました。

当保存会は平成二十二年に戦前のにわか芝居を再生した「岐阜まち歌舞伎」を岐阜座発祥の地である伊奈波神社境内で上演したのを契機に発足しました。会員は岐阜市金華、京町両地区にある老舗の跡取りらでつくる「岐阜町若旦那会」のメンバーが中心です。

現在も毎年四月五日に開催される伊奈波神社例大祭前夜に地歌舞伎を奉納しており、地域の方々にも出演いただき、お囃子には小中学生も参加しています。今後も地歌舞伎とともに、地域を盛り上げて参ります。



東美濃こども歌舞伎（恵那市）

当保存会は、平成二十八年に「えなかぶきつず」の名称で五名の子供とその保護者で立ち上げました。衣裳、小道具、大道具を子供も大人も一緒になって試行錯誤しながら製作し、全てが手作りでのスタートでした。

令和元年には「東美濃こども歌舞伎」に名称を変更し、岐阜県地歌舞伎保存振興協議会に加盟しました。

当保存会では子供たちの自主性を大切にしつつ、仲間と共に舞台を作る喜びを体験してもらうため、年に一度、秋から冬にかけて自主公演を開催しています。当公演は市内各地域で毎年会場を変えて開催しており、その年ごとに違った雰囲気での公演を楽しむことができます。

古くからの伝統ある団体ではありませんが、様々な事業所様のレセプションに出演したり、地域のお祭りにて神社の舞台に立たせて頂いたり、子供たちにとって貴重な経験となっています。

今後も、より多くの子供たちに地歌舞伎を楽しんでもらえるよう、活動を充実させて参ります。

2020 地歌舞伎
勢揃い公演 七月

だち歌舞伎保存会（土岐市）

土岐市駄知町は、古くから陶磁器産業で栄えており、時代に応じた娯楽は数多くありましたが、永く受け継がれるような伝統文化は見受けられませんでした。地歌舞伎についても、戦後間もない頃から昭和三十年代半ばまでの十数年間、町内にある「陶栄座」という芝居小屋で公演が行われていたと記録されていますが、その後は約半世紀にわたり、上演されることはありませんでした。

平成二十六年、還暦を迎えた同年会が、美濃歌舞伎保存会の指導協力のもと、瑞浪市日吉町の「相生座」で還暦の記念に地歌舞伎を上演しました。これが町内外で好評を得たことがきっかけとなり、平成三十年に当時のメンバーが中心となって「だち歌舞伎保存会」を立ち上げました。

発足したばかりの団体ですが、子供から大人まで広くメンバーを募りながら、地歌舞伎の普及と保存を目的に地道な活動が続けて参ります。



新型コロナウイルス感染予防対策について 安心して参加いただくために、皆様のご協力をお願いします。

- ・発熱や風邪症状のある方は、参加をお控えください
- ・ソーシャルディスタンスの確保
- ・マスク着用の厳守（マスク非着用の方はご入場できません）
- ・出演者への声援や歌唱、入り待ち、出待ちの禁止
- ・手指消毒及び検温の実施（37.5℃以上の方はご入場できません）
- ・公演中のおひねり、大向こうの禁止

※「岐阜県感染警戒QRシステム」の登録をお願いします。
ご登録をいただきますと、感染者が発生した場合、同じ日に来訪された方にメールでお知らせいたします。

スタンプラリー実施中
開催期間中、1公演ご鑑賞ごとにスタンプが1つたまります。スタンプ数に応じて素敵なグッズをプレゼント！
※無観客開催の動画をご覧になった方はお申し出ください。

ぎふ清流文化プラザ
You Tubeチャンネル

本公演の様態を収録し、後日配信します。



地歌舞伎とは

地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、それに憧れた地方の人々が神社の祭りで演じたり、芝居小屋を造ったりと、自ら楽しむようになりました。現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。

清流の国ぎふ

2020 地歌舞伎
勢揃い公演 七月

2021年7月25日（日）

◆ 開演 13時00分（開場12時00分）

◆ 会場 ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール

◆ 上演外題・出演

13時00分（50分）

なるかみ

鳴神 岐阜歌舞伎保存会（岐阜市）

14時15分（20分）

かきつばたななえ そめぎぬ てならいこ

杜若七重の染衣 手習子

東美濃こども歌舞伎（恵那市）

14時55分（60分）

青砥稿花紅彩画 浜松屋の場

だち歌舞伎保存会（土岐市）

◆ 終演 16時00分（予定） 演出上演順は変更となる場合があります。



イヤホン同時解説

演目の見どころやあらすじについて、
分かりやすく解説します。

歌舞伎ソムリエ おくだ 健太郎氏



主催／岐阜県・（公財）岐阜県教育文化財団
協力／岐阜県地歌舞伎保存振興協議会
令和3年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業
ねんりんビック岐阜2021応援事業



表紙

↓地

裏表紙

表面

中に折り込む面

鳴神

岐阜歌舞伎保存会（岐阜市）

時は平安時代、陽成帝の御世。帝は鳴神上人に祈禱をしてもらい世継ぎを授かります。ところが約束の戒壇建立が許されなかったため、鳴神は怒り、北山の滝壺に雨を降らす竜神を封じ込め、一滴の雨も降らないようにしてしまいます。困惑した朝廷は雲の絶間姫を鳴神のもとへ向かわせます。

女人禁制の霊場で念仏を唱える雲の絶間。鳴神が素性を問いたただすと、夫の形見の小袖を洗うためこの場所へ来たと言います。亡き夫との恋物語を艶めかしく話す姿に、策略とは知らず引き込まれていく鳴神は、ついに祭壇から転げ落ちて気を失ってしまいます。

雲の絶間が滝壺の水を飲ませると鳴神は意識を取り戻します。その時、色仕掛けに神通力を失ってしまうという一角仙人の故事を思い出した鳴神は、雲の絶間を疑います。しかし、尼になりたいとの言葉を信じることで、夫婦になろうと告げます。結婚には盃事が付きものと酒を薦めた雲の絶間は、酔った鳴神から雨を降らせる方法を聞き出し、滝壺の注連縄を切り落とし、竜神を解放します。たちどころに雷鳴が轟き、大雨が降り出します。雲の絶間は鳴神に気づかれぬうちに急いで逃げます。

目を覚ました鳴神は事の次第を知るや、すさまじい形相で雷となり、雲の絶間を追い掛けようと言います。そこに糸寺彈正照正が現れ、鳴神を押し戻します。

仕若七重の染衣

手習子

東美濃こども歌舞伎（恵那市）

ある春の日に、寺子屋帰りの町娘が道草をして遊んでいる様子を表現した歌舞伎舞踊です。蝶々を見つけて草紙を使つて捕まえようとするあどけなさや、年頃の娘のませた恋心を踊りで表現します。

寺子屋とは、文字の読み書きなどを手習師匠から教わっていた学問所のこと。文字の練習をした手習草紙を持ち、日傘をさした姿がとても可愛らしい演目です。

青砥稿花紅彩画

浜松屋の場

だち歌舞伎保存会（土岐市）

鎌倉雪ノ下にある呉服屋「浜松屋」に二階堂信濃守の家中を名乗る早瀬水主の息女お浪と若党四十八が、婚禮の衣装を見に訪れます。様々見て注文し、後に代金を持つてくると立ち去ろうとするお浪らに、番頭与九郎が「懐に入ったものを出すように」と言い、赤い鹿の子の布を出させます。盗人として、お浪らを寄つてたかつて打ち据えたところで、その布は他の店で買った物ということが判明します。

大変な粗相をしたと主人の息子宗之助が詫びますが、怒った四十八は嫁入り前の息女の額に傷までつけられたと、主人幸兵衛に百両を要求します。法外な金を要求する四十八に対し、浜松屋に呼ばれた鳶の頭清次も憤慨して啖呵を切ります。ことを穏便に済ませようと幸兵衛が百両渡したその時、店の奥から二階堂信濃守の用心役玉島逸当という侍が現れます。逸当は家中に早瀬水主という者はおらず、腕にちらりと見えた彫り物からすると、お浪はどうやら男のようだと二人の悪事を見破ります。

見破られた二人は、女装の盗賊弁天小僧菊之助とその兄貴分南郷力丸であることを明かし、居直つて悪態をつきます。傷の膏葉代として十両を受取り、二人はようやく去っていくのです。

◆配役

早瀬の息女 お浪
（実は弁天小僧菊之助）
若党 四十八（実は南郷力丸）
玉島逸当（実は日本駄衛門）
浜松屋主人 幸兵衛
幸兵衛 宗之助
番頭 与九郎

南波 誠示郎
遠山 明良
丹羽 勇二
古屋 弓子
水野 晟也
栗山 英治

鳶の頭 清次
手代 佐兵衛
手代
浜松屋客父親

前野 善孝
小林 昌臣
戸松 富美子
後藤 寿登代
加藤 信子
加藤 淳司

浜松屋客娘
丁稚
後見
附け

西尾 隆久
六戸 柚葉
花輪 彩加
松川 竜也
松川 竜之介

振付指導 尾上 幸松
長唄 松川 竜之介
三味線 杵屋 喜鶴
鳴物 伊藤 喜朱雀
笛 小野崎 隆賢
狂言方 市川 紫女升
顔師 林 まゆみ
着付 小川 厚子
衣裳 中島 千枝美
美濃歌舞伎衣裳部

◆配役

鳴神上人 山本 慎一郎
雲の絶間姫 矢島 明
白雲坊 古田 浩紹
黒雲坊 住公 輔
所化一 藤居 進一

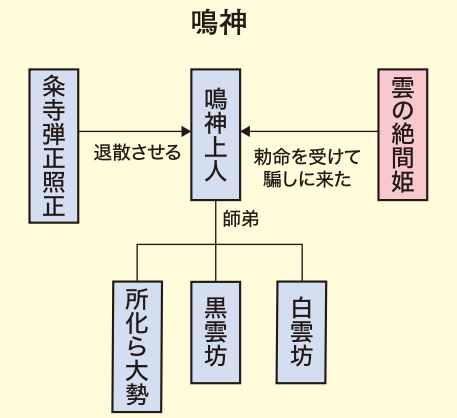
三 川島 徹郎
四 大平 雅章
五 蒲 勇介
六 寺澤 隆浩
七 松枝 秀乗
八 山田 知幸
九 林 亨一
十 岡田 さや加
十一 横田 哲也
十二 金森 崇真
十三 矢野 宇太郎
金雲坊 林 優一郎
銀雲坊 金森 喜十郎

鳴神

銅雲坊 蒲 瑞和
赤雲坊 横田 芹奈
青雲坊 田代 光
緑雲坊 金森 宗八郎
紫雲坊 蒲 見音
さくらん坊 金森 慶七郎
きかん坊 蒲 十一
糸寺彈正照正 金森 正親

後見

鳳川 喜久次
牧野 浩之
羽根田 雄仁
根崎 怜司



イヤホン同時解説

おくだ健太郎氏

名古屋出身。早稲田大学政経学部卒業後、大歌舞伎のイヤホンガイド解説者としてデビュー。その後二十五年あまり、歌舞伎座や御園座などで解説員を歴任。また、歌舞伎ソムリエの呼称で、執筆や講演、YouTubeの発信など、幅広く活躍している。



↑天

↓地

中面

中に折り込む面

表紙裏

①谷折り

②谷折り

297mm

207mm

210mm

210mm